

企業調査レポート

安藤証券株式会社
調査部：土田 陽一
平成 24 年 1 月 20 日

ミタチ産業（3321）

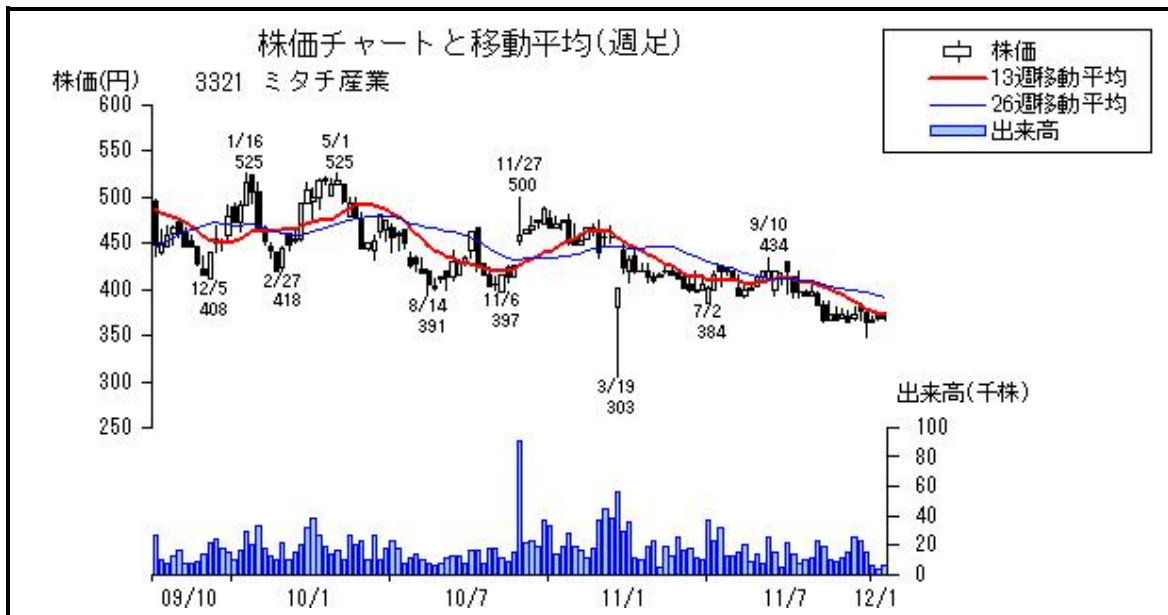
業績推移（連結ベース、単位はEPS、配当が円、他は百万円、予は会社側予想）

決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	EPS	配当
10/5	31,190 +17.9%	396 2.4倍	504 +99.2%	295 2.3倍	40.26	14.00
11/5	31,661 +1.5%	291 -26.6%	374 -25.6%	116 -60.8%	15.79	14.00
12/5 予	37,000 +16.9%	310 +6.5%	390 +4.0%	60 -48.3%	8.16	14.00

各種指標（株価、配当利回りのカッコ内は日付）

株 価	369 円(1/19)	発行済株式数	7,350 千株(11/11 期)
連結 P E R	45.2 倍(12/5 期予)	連結 B P S	647.49 円(11/11 期)
連結 P B R	0.6 倍(11/11 期)	連結 R O E	2.3%(11/5 期)
配当利回り	3.8%(1/19)	上場市場	東証・名証一部

株価チャート（週足）



本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、銘柄の選定、投資判断の最終決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料は、信頼出来ると考えられる情報に基づいて作成されていますが、安藤証券は、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、今後、予告なく変更される事があります。事前の了承なく複製または転送等行わないようお願いします。

会社概要

電子部品専門商社で、カーエレクトロニクスおよびアミューズメント（パチンコ機）向け商材を主力とし、工作機械向け制御盤の組み付けや光半導体の受託生産なども手掛ける。主要納入先はアイシン精機グループ、シャープ、ブラザー工業である。

業績動向

2011年6 - 11月期（中間期）の連結業績は、主要納入先を中心にカーエレクトロニクス商材や光半導体の受託生産などが当初の会社側予想を上回って推移した模様であるほか、アミューズメント関連商材や工作機械向け組み付け受注が順調に推移、売上高は当初の会社側予想を20億68百万円上回り、当初の減収予想から一転、増収を達成した。売上高が当初予想を上回る情勢であったことを受けて利益面でも当初の会社側予想を上回るペースで推移していた模様であるが、業務提携先に対する債権に係る貸倒引当金を販管費に計上したため、営業損益、経常損益、最終損益とも当初の会社側予想を下回り、いずれも赤字となった。ただ、この特殊要因を除けば、いずれも当初の会社側予想を上回る結果となっていたものと思われる（2011年6 - 11月期実績は売上高が前年同期比9.7%増、営業損益が67百万円、経常損益が12百万円、最終損益が199百万円）。

2012年5月期通期では、下期に光半導体の受託生産が減速すると見込まれるものの、カーエレクトロニクス商材やアミューズメント関連商材、工作機械向け組み付け受注などは順調に推移する見込みで、売上高は当初の会社側予想を28億円上回る見通しである。利益面では、前述の貸倒引当金計上の影響があるため、営業利益、経常利益、当期利益とも当初の会社側予想を下回る見通しであるものの、営業利益、経常利益については増益を確保する見通しである。

同社の今期業績は、貸倒引当金を販管費に計上した影響があるため、利益面において低水準にとどまる見通しとなっているが、この影響を除けば大幅な増益となるほか、影響を織り込んで営業利益、経常利益が増益を確保する見通しである点は評価されるものと思われる。なお、貸倒引当金を計上した業務提携先は、プリント基板実装用スクリーン印刷機や半導体パッケージング用製品などの開発・製造・販売などを手掛ける企業で、2009年12月に業務提携している。

本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、銘柄の選定、投資判断の最終決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料は、信頼出来ると考えられる情報に基づいて作成されていますが、安藤証券は、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、今後、予告なく変更される事があります。事前の了承なく複製または転送等行わないようお願いいたします。